

沖縄中南部方言の感嘆詞

—首里方言と屋取方言の女性語・男性語—

マーヒル・エルシリビーニー

1. 1. 問題提起
1. 2. 方法
2. 1. 男女とも完全に使用しないもの
2. 2. 男女とも完全に使用するもの
2. 3. 男女とも部分的に使用するもの
2. 4. 女性のみ完全に使用するもの
2. 5. 女性のみ部分的に使用するもの
2. 6. 女性が男性より使用するもの
2. 7. 男性のみ使用するもの
2. 8. 男性のみ部分的に使用するもの
2. 9. 男性が女性より使用するもの
3. 1. 結論
3. 2. 注
3. 3. 参考文献
3. 4. 図表

1. 1. 問題提起

日本語の標準語においては、男性語¹⁾と女性語²⁾の研究が進んでいる³⁾。しかし、方言は標準語ほど、研究されていない⁴⁾。例えば、調べた限り、首里方言と屋取方言⁵⁾の感嘆詞⁶⁾における男女使用区別はほとんど研究されていない。首里方言の感嘆詞は日本語の標準語のようにはっきりしているかどうかを明らかにすることが本稿のねらいである⁷⁾。

1. 2. 方法

研究方法として、調査⁸⁾を行なったが、その調査で4人の話者（女性二人と男性二人）に聞いた⁹⁾。話者を女性1、女性2、男性1、男性2と呼ぶことにする。

「首里・那覇方言音声データベース」の感嘆詞を利用したが、そのデータにはいくつかの問題点があった¹⁰⁾。1) 感嘆詞の定義がなかった。2) 男性の音声と女性の音声があるが、女性のみ使用する感嘆詞にも男性の音声があり、男性のみ使用する感嘆詞にも女性の音声がある。3) 那覇・首里方言の感嘆詞が取り上げられているが、那覇と首里は異なる方言である。

4) (イチ「五つ」) のようなものは、感嘆詞として見做し難い¹¹⁾ ため、4. の他に40. イチ (「五つ」)、69. ククヌ (「九つ」)、84. ター (「二つ」)、92. ティー (「ひとつ」)、126. ミー (「三つ」)、132. ムー (「六つ」)、136. ナナ (「七つ」)、137. ノーユン (「八つ」)、141. ユー (「四つ」) を削除した。また、29. アフィー (「汽笛の音」) のように、物の音を、127. ミーハーハー (「馬の鳴き声」)、131. ミヒヒーン (「馬の鳴き声」)、156. ンモー (「牛の鳴き声」) のように、なき声を表す感嘆詞も削除した。その他、44. イメーヌカージ (「船を漕ぐ時の掛け声、芝居用語」) のように、めったに使用されないものも削除した。5) 19、20/21、22/60、61のように誤って繰り返されたものもある。6) 8、10、12、17、32、37、63、75、87、89、106、128、120、130、145 は女性語で、31、64、74、79は男性語で、91は男女とも使うとされているが、他の感嘆詞の男女区別については何も取り上げられていない。

2. 1. 男女とも完全に使用しないもの

本稿で取り上げた感嘆詞を「完全に使用されないもの」と「完全に使用されるもの」の二つに分類する。

次の19個の感嘆詞が完全に使用されないが、使用されない原因は明確ではないけれども、地域ないしは世代の違いに原因があると解釈できそうである。なお、子供に関する感嘆詞と、動物を呼ぶ場合の感嘆詞がいくつかある。

	感嘆詞	女性 1	女性 2	男性 1	男性 2
6	アーヒャンガレー	×	×	×	×
8	アキ	×	×	×	×
14	アシッサ	×	×	×	×
18	アッチャー	×	×	×	×
36	アンデー	×	×	×	×
42	イッチャー	×	×	×	×
57	ヨウチ	×	×	×	×
64	エーキチャメー	×	×	×	×
71	クトゥカークトゥカー	×	×	×	×
78	サラバ	×	×	×	×
90	チーチャーチーチャー	×	×	×	×
101	ドウカシレー	×	×	×	×
102	トウジャイ	×	×	×	×
111	トール	×	×	×	×
114	ハウ	×	×	×	×
130	ミシナタラク	×	×	×	×

133	メヌメヌー	×	×	×	×
134	イユー	×	×	×	×
155	ンパーンパー	×	×	×	×

2.2. 男女とも完全に使用するもの

「使用されるもの」を「男女とも完全に使用するもの」と「男女とも部分的に使用するもの」の二つに分ける。

次の44個の感嘆詞は「男女とも完全に使用するもの」である¹²⁾。この中には、上下関係、喧嘩、怒りの場合に使用される感嘆詞がいくつかある。

	感嘆詞	女性 1	女性 2	男性 1	男性 2
1	アー	○	○	○	○
2	アーアー	○	○	○	○
7	アイ	○	○	○	○
9	アキサミヨー	○	○	○	○
10	アキトナー	○	○	○	○
17	アッキヨー	○	○	○	○
19	アッパンガラー	○	○	○	○
23	アネ	○	○	○	○
24	アネ	○	○	○	○
26	アハアハー	○	○	○	○
27	アハハー	○	○	○	○
30	アリアリ	○	○	○	○
34	アリヒャー	○	○	○	○
35	アワリ	○	○	○	○
48	ウー	○	○	○	○
49	ウートートゥ	○	○	○	○
50	ウネ	○	○	○	○
51	ウネウネ	○	○	○	○
52	ウリウリ	○	○	○	○
53	ウリッサ	○	○	○	○
59	イエー	○	○	○	○
60	イエーイエー	○	○	○	○
62	エー	○	○	○	○
70	クチュクチュ	○	○	○	○

73	クワーギヌシチャ	○	○	○	○
80	シー	○	○	○	○
81	シタイ	○	○	○	○
83	シッシッ	○	○	○	○
88	タッチャンタチャン	○	○	○	○
93	ディー	○	○	○	○
94	ディーディー	○	○	○	○
95	ディカディカ	○	○	○	○
98	ディッカーディッカー	○	○	○	○
99	ディッカディッカ	○	○	○	○
103	トー	○	○	○	○
107	トートー	○	○	○	○
110	トーヒャー	○	○	○	○
112	ハー	○	○	○	○
119	フーン	○	○	○	○
120	フーン	○	○	○	○
144	ユーシタイ	○	○	○	○
150	ウンジ	○	○	○	○
151	ウンー	○	○	○	○
159	ンーンー	○	○	○	○

2.3. 男女とも部分的に使用するもの

次の21個の感嘆詞は「男女とも部分的に使用するもの」である。つまり、男性の中でも女性の中でも使う人もいる。なお、女性1と男性1の答えはたいてい同じで、女性2と男性2もたいてい同じである。また、マイナスな意味がある5、39、43、105は女性2と男性2において使用される。

	感嘆詞	女性1	女性2	男性1	男性2
5	アーヒャー	×	○	×	○
39	イーヒャー	×	○	×	○
43	イッチャークッチャー	×	○	×	○
105	トーツサ	×	○	×	○
128	ミシナーク	○	×	×	○
143	ユーシタ	○	×	×	○
66	ヨーホー	×	○	○	×

67	ヨーヨー	×	○	○	×
142	ユーイユーイ	×	○	○	×
46	キーヒー	○	×	○	×
55	ヨウーフー	○	×	○	×
72	クトウクトウー	○	×	○	×
76	サティ	○	×	○	×
77	サティサティ	○	×	○	×
89	タリ	○	×	○	×
115	ヒー	○	×	○	×
117	フー	○	×	○	×
122	ベー	○	×	○	×
148	ワー	○	×	○	×
154	ンパ	○	×	○	×
158	ンーパ	○	×	○	×

2. 4. 女性のみ完全に使用するもの

「女性が使用するもの」を、「女性のみ完全に使用するもの」と「女性のみ部分的に使用するもの」と「女性は男性より使用するもの」の三つに分ける。

次の感嘆詞は「女性のみ完全に使用するもの」である。「～タイ」は女性語につける接尾である。該当する語は二語しかなく、男性と女性の差が大きくないことを示す。

	感嘆詞	女性 1	女性 2	男性 1	男性 2
16	アッカー	○	○	×	×
32	アリタイ	○	○	×	×

2. 5. 女性のみ部分的に使用するもの

次の10個の感嘆詞は「女性のみ部分的に使用するもの」である。つまり、男性が使用しないが、女性の中に使用する人がいる。この中には女性が目上に使う「タイ」以外は喧嘩、ののしる意などのように、マイナスの意味を表す感嘆詞が多い。

	感嘆詞	女性 1	女性 2	男性 1	男性 2
11	アキヨ	×	○	×	×
13	アシ	×	○	×	×
15	アシヒャー	×	○	×	×
25	アハーイ	×	○	×	×

28	アヒャンガレー	×	○	×	×
33	アリッサ	×	○	×	×
82	シタリ	×	○	×	×
129	ミシナターク	×	○	×	×
37	アンマヨー	○	×	×	×
87	タイ	○	×	×	×

2. 6. 女性が男性より使用するもの

次の14個の感嘆詞が「女性が男性より使用するもの」である。

	感嘆詞	女性 1	女性 2	男性 1	男性 2
135	イヨーキーイヨーキー	○	○	×	○
4	アートートゥ	○	○	○	×
12	アキヨー	○	○	○	×
38	イー	○	○	○	×
45	イヤ	○	○	○	×
47	キーキー	○	○	○	×
68	カーラーブッテーイシブッテー	○	○	○	×
85	ダー	○	○	○	×
86	ダーナー	○	○	○	×
91	チェー	○	○	○	×
106	トートゥ	○	○	○	×
123	ベール	○	○	○	×
147	ウェーカウェーカ	○	○	○	×
152	ンダ	○	○	○	×

2. 7. 男性のみ使用するもの

「男性が使用するもの」を、「男性のみ完全に使用するもの」と「男性のみ部分的に使用するもの」と「男性が女性より使用するもの」の三つに分ける。

次の六つの感嘆詞は「男性のみ使用するもの」である。それらはだいたいにおいて、ぞんざいな言い方であるので、女性に好まれず、男性によって使用される傾向にある。しかし、それらの数は少ないということが男性と女性の差が大きくないことを示す。上下関係を表す感嘆詞（例：サリはサイと同様で、男性が目上の人に使うもの）のものがいくつかある。

	感嘆詞	女性 1	女性 2	男性 1	男性 2
79	サリ	×	×	○	○
100	ディッチャー	×	×	○	○
121	ヘイ	×	×	○	○
124	ホー	×	×	○	○
146	リッチャー	×	×	○	○
153	ンバ	×	×	○	○

2.8. 男性のみ部分的に使用するもの

次の13個の感嘆詞は「男性のみ部分的に使用するもの」である。つまり、二人の女性話者は全く使用しないが、二人の男性話者のうちのどちらか一人が使用する語である。この中には、目上に尊敬を示す「サイ」の他、男らしさを強く示すいくつかの語がある。

	感嘆詞	女性 1	女性 2	男性 1	男性 2
54	ウンデー	×	×	○	×
58	フウチフウチ	×	×	○	×
63	エーイッチャー	×	×	○	×
74	サイ	×	×	○	×
96	ディカヨ	×	×	○	×
109	ドードー	×	×	○	×
118	フーイ	×	×	○	×
139	ヤーヤー	×	×	○	×
140	ヤイ	×	×	○	×
149	ワーアー	×	×	○	×
3	アーキチャメ	×	×	×	○
125	ホーハイ	×	×	×	○
145	ユカーツチュ	×	×	×	○

2.9. 男性が女性より使用するもの

次の10個の感嘆詞は「男性が女性より使用するもの」である。つまり、二人の男性話者は使用するが、二人の女性話者のうちのどちらか一人は使用しない語である。この中には、男らしさを示す綱引き、馬の制止、威勢を張るといったような場合に使用される感嘆詞がある。

	感嘆詞	女性 1	女性 2	男性 1	男性 2
75	サッティムサッティム	○	×	○	○
97	ディッカー	○	×	○	○
113	ハーイヤ	○	×	○	○
116	ヒヤ	○	×	○	○
157	ンーバ	○	×	○	○
21	アッパンガレー	×	○	○	○
65	オー	×	○	○	○
104	ドー	×	○	○	○
108	ドードー	×	○	○	○
56	ヲウーヲウー	○	×	○	○

3. 1. 結論

142の感嘆詞の中で、「男女とも完全に使用しないもの」は、19（13%）、「男女とも完全に使用するもの」は44（31%）、「男女とも部分的に使用するもの」は21（15%）、「女性のみ完全に使用するもの」は2（1%）、「女性のみ部分的に使用するもの」は10（7%）、「女性が男性より使用するもの」は14（10%）、「男性のみ完全に使用するもの」は6（4%）、「男性のみ部分的に使用するもの」は13（9%）、「男性が女性より使用するもの」は10（7%）である。

つまり、男女とも使用するものは46%、女性のみが使用するものは8%、男性のみが使用するものは13%である。

世界の言語の中で日本語の標準語は男女による違いが一番ある言葉だと言われている¹³⁾。日本語の標準語は外国語（例えば、英語）と対照すれば、日本語の標準語における男ことばと女ことばの差が大きい。

これに対して、首里方言と屋取方言の感嘆詞は日本語の標準語に対比すれば、男ことばと女ことばの差が大きくない。これが結論である（表1）。つまり、少なくともこれら方言の感嘆詞においては、男性語と女性語とを明確に区切ることは難しい。感嘆詞において男性語と女性語の区別が何故明確でないのか、あるいは、日本語の標準語で男女差が最も顕著に現れる終助詞において男性語と女性語の区別があるのか等を今後の課題にしておきたい¹⁴⁾。

3. 2. 注

¹⁾ 男性らしさを強調する言葉である。

²⁾ 女性らしさを強調する言葉である。しかし、男性語・女性語は、はっきりしたルールがなく、使用場面、年齢、相手との親しさとの度合いなどによって現れ方が異なってくる。

³⁾ 「あたし」、「あんた」、「あら、まあ」は女性語であるが、「おれ」、「おい」、「おいら」は男性語である。

- 4) たとえば、狩俣繁久 2004 によれば「琉球語の文法研究は音声の研究、語彙の収集などにくらべるとおくれがちである」とある。
- 5) 首里方言とは沖縄中南部で共通語として広く使用された方言のことである。屋取方言（ヤードゥイ方言）とは、もと沖縄中南部に住んでいた移住者が話す方言のことである。
- 6) 感動詞、間投詞とも呼ばれるが、「活用のない自立語で、一般に文のはじめにあって、感動、呼びかけ、応答、などの意を表すものである」と定義しておく。
- 7) 琉球語が十分研究されていない上、話者が大変少なくなっている。急いで研究を進めないと、話者がなくなってしまう、琉球語の大部分が曖昧なままで、死滅してしまう危険がある。日本語の原語やその方言で残された資料の内容が十分理解できない恐れもある。現代と未来の発展のため、琉球の様々な方言を急いで研究する必要がある。現代の文化は琉球の文化より進んでいるので、琉球語の研究は無駄だと思われるかもしれない。しかし、エジプト人である論者がエジプト語のことを考えたとき、数千年前、使用されたエジプト語の研究を着実に進めたおかげで当時の様々な事を知ることができ、現代と未来のために、役立てることができるのだと言える。数千年前、建てられた神殿に刻まれた象形文字が読めるようになってから、例えば、当時の人がかかった病や、日々の暮らしなどを知ることができ、現代まで、どのように変化してきたか、また、将来、どのように変化していくかが予想できるのである。したがって、現代の日本と未来の日本のためだけでなく、全世界のため、滅びかけている首里や屋取のような方言または言語を明らかにする価値がある。将来の人はその仕事ができない。現代の人がすべきである。昔の人が現代の人を考え、様々な事を与えたように、現代の人はその恩返しとして、将来の人を考え、様々な事を与えるべきである。この場を利用して、首里方言や屋取方言のように死滅の危機に瀕している方言または、言語を急いで研究するように呼びかけたい。
- 8) 調査のために、研究員として、1ヶ月、沖縄国際大学にお招きいただき、そこで、琉球方言、沖縄方言、首里方言の基礎知識を得ながら、本稿の研究テーマに関する調査を行なった。
- 9) 現在、首里方言が話せる人が大変少なくなっているという現実がある。
- 10) 本稿で本データベースの問題点を取り上げる目的は批判ではなく、そのデータベースを改善するためである。この場を利用して、そのデータベースのプロジェクトに関わった方々にお礼を表します。
- 11) ここで、データベースの感嘆詞を引用して簡単に紹介する（詳細は参考文献参照）。
- | | |
|----------------|-------------------------|
| 1. アー ああ | 2. アーアー ああああ |
| 3. アーキチャメ よし | 4. アートートゥ 御嶽の神を拝む時に発する声 |
| 5. アーチャー ちくしょう | 6. アーハンガレー ちくしょう |
| 7. アイ おっと | 8. アキ あら |
| 9. アキサミヨー あれえっ | 10. アキトナー おやまあ |

- | | |
|-----------------------------------|-------------------------|
| 11. アキヨ あわれ | 12. アキヨー あら |
| 13. アシ そうさ | 14. アシッサ そうさ |
| 15. アシヒャー そうさ | 16. アッカー あいた |
| 17. アッキヨー ああ | 18. アッチャー あいた |
| 19, 20. アッパンガラー どうにでもなれ | 21, 22. アッパンガレー どうにでもなれ |
| 23. アネ ほらほら、あれまあ | 24. アネ ほら、おや |
| 25. アハーイ やあい | 26. アハアハー 笑うさま |
| 27. アハハー あっはっは | 28. アヒャンガレー あっはっは |
| 30. アリアリー あれよあれよ | 31. アリサイ ほら |
| 32. アリタイ ほら | 33. アリッサ ほら |
| 34. アリヒャー ほら | 35. アワリ あわれ |
| 36. アンデー あれ | 37. アンマヨー あれまあ |
| 38. イー はい | 39. イーヒャー なんだと |
| 42. イッチャー あら | 43. イッチャークッチャー おやまあ |
| 45. イヤ い | 46. ㇿーヒー さあ |
| 47. ㇿーㇿー いいえ | 48. ウー はい |
| 49. ウートートゥ あなとうと | 50. ウネ おや |
| 51. ウネウネ おやおや | 52. ウリウリ ほらほら |
| 53. ウリッサ それ | 54. ウンデー ほら |
| 55. ヲーフー さあ | 56. ヲーフー いいえ |
| 57. ヲウチ あぶない！ | 58. ヲウチヲウチ あぶない！ |
| 59. イエー おい | 60, 61. イエーイエー おおい |
| 62. エー へえ | 63. エーイッチャー あらまあ |
| 64. エーキチャメー よいしょ | 65. オー はい、ああ |
| 66. ヲーホー さあ | 67. ヲーヲー いいえ |
| 68. カーラーブッテーイシブッテー
からかう言葉。 | 70. クチュクチュ こちょこちょ |
| 71. クトゥカークトゥカー 猫を呼ぶ声 | 72. クトゥクトゥー 猫を呼ぶ声 |
| 73. クワーギヌシチャ 雷をおそれて唱
えるまじないの文句 | 74. サイ 目上に話しかける発する敬語 |
| 75. サッティムサッティム さてもさても | 76. サティ さて |
| 77. サティサティ さてさて | 78. サラバ さらば |
| 79. サリ 目上に話しかける発する敬語 | 80. シー しい |
| 81. シタイ でかした | 82. シタリ ざま見ろ |
| 83. シッシッ しっしっ | 85. ダー おい、しまった |

- | | |
|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 86. ダーナー しまった | 87. タイ 目上に話しかける発する語 |
| 88. タッチャンタチャン 立った立った | 89. タリ 目上に話しかける発する語 |
| 90. チーチャーチーチャー 犬を呼ぶ声 | 91. チェー おや |
| 93. ディー いざ、さあ | 94. ディーディー さあさあ、冗談はよ
してくれ |
| 95. ディカディカ さあさあ | 96. ディカヨ いざ |
| 97. ディッカー さあ | 98. ディッカーディッカー さあ |
| 99. ディッカディッカ さあ | 100. ディッチャー さあ行こうか |
| 101. ドウカシレー こら | 102. トウジャイ 東西 |
| 103. トー さあ、よし | 104. ドー どう |
| 105. トーッサ それっ | 106. トートウ どうぞ |
| 107. トートー さあさあ | 108. ドードー どうどう |
| 109. ドードー 花婿を花嫁の部屋へ押し
かける時の掛け声 | 110. トーヒャー それっ |
| 111. トール もういいよ | 112. ハー ああ |
| 113. ハーイヤ 綱引きの時の掛け声 | 114. ハウ ああん |
| 115. ヒー ああ、何だ | 116. ヒヤ えい |
| 117. フー はい | 118. フーイ ふうっ |
| 119. フーン うん | 120. フーン ふん |
| 121. ヘイ おい | 122. ベー いやだ |
| 123. ベール いやだ | 124. ホー はい、ああ |
| 125. ホーハイ 火事の時に叫ぶまじない
の語 | 128. ミシナーク めっそうな |
| 129. ミシナターク めっそうな | 130. ミシナタラーク めっそうな |
| 133. メヌメヌー 山羊を呼ぶ声 | 134. イュー はい |
| 135. イョーキョーイョーキョー 泣く子をあ
やす声 | 138. ニンジョームチ ねえ |
| 139. ヤーヤー やあやあ | 140. ヤイ やい |
| 142. ユーイユーイ 鶏を呼ぶ声 | 143. ユーシタ ざま見ろ |
| 144. ユーシタイ ざま見ろ | 145. ユカーツチュ 御苦労さま、いい子
ね |
| 146. リッチャー さあ行こうか | 147. ウェーカウェーカ よその犬に唱え
るまじないの文句 |
| 148. ワー わあ、ばあ | 149. ワーアー へええ |
| 150. ウンジ そうか | 151. ウンー うん |

152. ンダ どれ、こら
 154. ンパ いや
 157. ンーバ いや
 159. ンーンー ううん

153. ンバ いや
 155. ンパーンパー いやいや
 158. ンーパ いや

¹²⁾ データベースでは、10. アキトナーと17. アッキヨーは女性が使用するとされている。また、大きく笑う場合の26. アハアハー、27. アハハーと喧嘩の場合の34. アリヒャーと110. トーヒャーは男性のみ使用すると思われそうであるが、実際に女性も使用している。男性と女性の差が大きいことを示す。女性は女性同士の時、使用する。

¹³⁾ 佐々木瑞枝（参考文献参照）

¹⁴⁾ 本稿のテーマを考える機会を下さった沖縄国際大学、特に西岡敏准教授に厚くお礼を申し上げます。

3. 3. 参考文献

沖縄言語研究センター 「首里・那覇方言音声データベース」 shuri-naha Dictionary

<http://ryukyu-lang.lib.u-ryukyu.ac.jp/smh/part.php?area=SN&ID=12>

狩俣繁久 2004 「危機言語として琉球語の文法研究の課題」『琉球大学法文学部紀要日本東洋文化論集』 第10号

国立国語研究所 2001[1963] 『沖縄語辞典』 財務省印刷局

佐々木瑞枝 「男ことばと女ことば」 <http://jpsoc.net/modules/wfsection>

松村明[編] 1995[1988] 『大辞林』 第二版 三省堂

西岡敏・仲原穰 2006[2000] 『沖縄語の入門 たのしいウチナーグチ』（改訂版）伊狩典子・中島由美[協力] 白水社

フリー百科事典 『ウィキペディア（wikipedia）』

3. 4. 図表

表 1

